

環境への取組計画

◆札幌市の環境計画

札幌市気候変動対策行動計画（2021年3月策定）

持続可能な脱炭素社会の構築に向けて、気候変動対策（緩和策・適応策）を推進するため、2021年3月に策定しました。

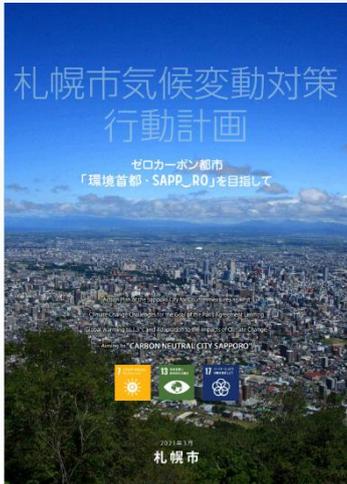
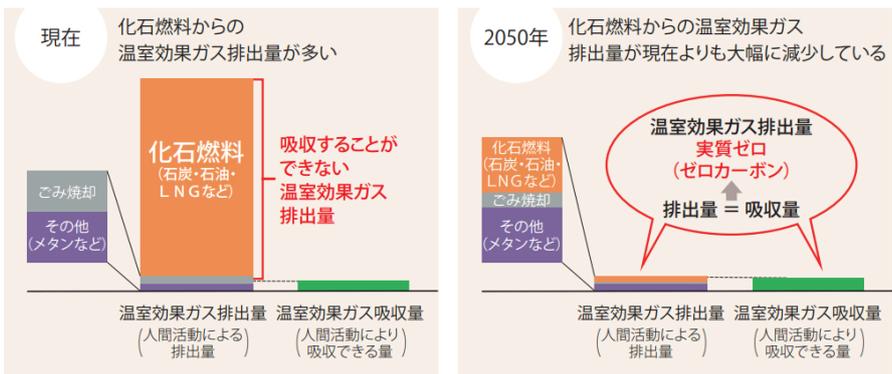
2050年には温室効果ガス排出量を実質ゼロとする“ゼロカーボン”を目標に掲げ、市民・事業者編と市役所編それぞれにおいて、2030年の目標とその達成に向けた取組を示しています。

＜市民・事業者編＞
2030年目標
温室効果ガス排出量を
2016年比で**55%削減**

＜市役所編＞
2030年目標
温室効果ガス排出量を
2016年比で**60%削減**

2050年目標
温室効果ガス排出量を**実質ゼロ**とする（ゼロカーボン）

※市域全体で人為的な排出量と吸収量との均衡を達成することです。



環境マネジメントシステム（EMS=Environmental Management System）

環境マネジメントシステムとは、組織や事業者が事業活動の中で自主的に環境保全に関する取組を進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための仕組みです。

札幌市では、2001年度からEMSの運用を開始し、2011年度からは「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」や「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）」に対応し、札幌市の実状に合わせた効果的・効率的な温暖化対策の推進を図るために、独自のEMS（札幌市EMS）を構築し、運用しています。



◆水道局の環境計画

第2次札幌水道ビジョン（2025年3月策定）

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの基本的な方向性に沿って策定する水道についての個別計画で、計画期間は2025年度から2034年度までの10年間です。施策の基本方向の一つとして「環境負荷低減の推進」を掲げており、脱炭素社会の実現を目指す札幌市水道事業者として、更なる省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入など、環境負荷の低減に取り組んでいきます。



持続可能な開発目標(SDGs)と水道局の環境施策

札幌市は、国連で採択された持続可能な開発目標の達成に向けた優れた取組の提案が認められ、2018年内閣府より「SDGs未来都市」として選定されています。水源保全をはじめとする水道局の取組もこのSDGsの実現につながるものが多いことから、SDGsの視点を持って水道局の施策展開を進めていきます。

SDGsの17のゴール（目標）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



《コラム～その1》

札幌市が環境省の「脱炭素先行地域」に選定されました！

「脱炭素先行地域」とは、地域特性等に応じた先行的な脱炭素の取組を実行することにより、2030年までに、民生部門（家庭部門及び業務その他部門）の電力消費に伴うCO₂排出量実質ゼロの実現を目指す地域です。環境省から、2025年までに全国で少なくとも100か所を選定することが表明されています。

札幌市は、共同提案者である北海道ガス株式会社、株式会社北海道熱供給公社、北海道電力株式会社、国立大学法人北海道大学及び公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）の5者とともに、「脱炭素先行地域」第二回公募に応募し、2022年11月に選定されました。

応募にあたっての「脱炭素先行地域計画提案書」の中には、水道局において導入予定の水力発電設備の内容も含まれており、今後も市役所一丸となってゼロカーボンシティ実現に向け、水道局においても環境施策をより一層推進してまいります。

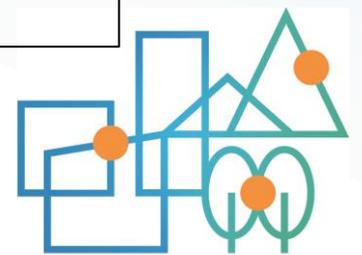
提案内容

1. 提案タイトル

ゼロカーボン都市「環境首都・SAPP_URO」を目指して
ー産学官による積雪寒冷地モデルの構築ー

2. 脱炭素先行地域の対象

- ①札幌都心民間施設群
- ②水素モデル街区
- ③北大北キャンパス



脱炭素先行地域

④公共施設群

- ・市有施設のZEB化、電力デマンド監視などの徹底した省エネの実施
- ・民間活力の導入など様々な手法による市有施設への再エネの導入拡大

⑤オリパラ施設群